

| | | | |
|------------------------|--|-------------|-------|
| 授業科目名 (英語表記) | 地域づくり戦略論B (Strategic regional/community management B) | | |
| 単位数 | 2 (学部生のみ) | 授業形態 | 講義、実習 |
| 担当教員 | 藤田 武弘 | | |
| 区分 | 学部開放科目 | | |
| 実施場所 | 秋津野ガルテン (和歌山県田辺市上秋津 4558-8) | | |
| 実施日時・時間 | 下記「授業計画」のとおり | | |

【講義概要】

地方創生が叫ばれる昨今、農山村再生手法として注目を集める都市農村交流では、農作業や農村での生活体験を共有することにより「もてなしを提供する側と享受する側とが、対等・互恵の人間的な関係に立って、相互に喜びを共有する精神性（ホスピタリティの精神）」に基づく関係性を構築することが重要である。本講義では「都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成」をテーマに掲げ、①戦略的地域づくりのための理論、②先進地の「地域づくり・人材育成」実践、③食と農との統合による地域活性化の可能性、④都市農村関係の変化と新しいツーリズム、⑤日本農業の行方と農山村再生の戦略、の5つの視座から農山村における地域づくり戦略を考える。

【授業計画】

〈視座①：戦略的地域づくりのための理論〉ガイダンス（藤田武弘：和歌山大学）

【01】地域循環型社会構築の現代的意義（元和歌山大学・橋本卓爾）10月1日 13:00～14:30

【02】協同組合の現代的価値（神戸大学・小野雅之）10月1日 15:00～16:30

【03】中山間地域問題の可視化（鳥根県中山間地域研究センター・有田昭一郎）10月2日 09:00～10:30

〈視座②：「地域づくり・人材育成」実践の成果に学ぶ

【04】地域経営のための合意形成と組織づくり（(株)秋津野・玉井常貴）10月29日 13:00～14:30

【05】農商工連携とコミュニティビジネス（(株)秋津野・木村則夫）10月29日 15:00～16:30

【06】産官学地域連携とコーディネーターの役割（和歌山大学・岸上光克）10月30日 09:00～10:30

〈視座③：食と農との統合による地域活性化の可能性〉

【07】料理人が繋ぐ生産と消費（辻調理師専門学校・尾藤環）11月12日 13:00～14:30

【08】高校生レストランから学ぶ地域資源活用（皇學館大学・岸川政之）11月12日 15:00～16:30

【09】地域循環型「食農連携」と農家レストラン（農園杉五兵衛園主・の島五兵衛）11月13日 09:00～10:30

〈視座④：都市農村関係の変化と新しいツーリズム〉

【10】都市農村関係の変化と日本型グリーン・ツーリズム（和歌山大学・藤田武弘）1月7日 13:00～14:30

【11】域学連携ワーキングホリデー受入と地域の変化（岩手県奥州市農家民宿「まやごや」・及川久仁江）1月7日 15:00～16:30

【12】地域とともに歩む都市農業の新たな展開（練馬区農業体験農園「緑と農の体験塾」・加藤義松）1月8日 09:00～10:30

〈視座⑤：日本農業の行方と農山村再生の戦略〉

【13】日本農業の後継者問題を考える（独立行政法人農研機構・山本淳子）2月4日 13:00～14:30

【14】地域サポート人からみた農山村再生（法政大学・関司直也）2月4日 15:00～16:30

【15】世界の食料問題と日本農業（和歌山大学・大西敏夫）2月5日 09:00～10:30

【到達目標】

本学では「域学連携」の観点に基づく地域での多様な実践型教育・研究が行われているが、本講義の受講者が、それら地域での実践的な学びを自ら深めていくことを期待している。なお、本講義は江頭ホスピタリティ事業振興財団の「寄付講義」として開講されることから、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響等の教育効果の検証を行う予定である。各種アンケート調査等に対する協力もお願いしたい。

【教科書・教材】

毎回レジュメ・資料を配付する。

【参考書】

○橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編『都市と農村—交流から協働へ—』日本経済評論社、2011年。

○藻谷浩介・NHK広島取材班『里山資本主義』角川書店、2013年。

○岸上光克『廃校利活用による農山村再生』JC総研ブックレット、筑波書房、2015年。

○小田切徳美『農山村は消滅しない』岩波新書、2015年。

【授業時間外学習】

本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行うこと。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求める。なお、視座⑤に先だって開催される特別講義「農山村は消滅しない（明治大学・小田切徳美）」（2016年01月16日）は、まとめのワークショップを開催する上で重要な機会なので、積極的に聴講してほしい。

【履修上の注意・メッセージ】

地域の再生は、一朝一夕で叶うものではない。常に「現場（実態社会）が先生」という謙虚さと熱意を持って、社会人など多世代の人々とともに地域の悩みを共有しながら根気強く問題解決に取り組もうとする受講生を歓迎する。なお、週末の土日開催（土曜日2講/日曜日1講とまとめ）というスタイルの講義以外に、オプションに関連するフィールドワーク（現地視察や農家民泊・農作業研修など）が提供されるので、これにも積極的に参加してほしい。